

1 学校教育目標

「夢実現 ～百見は一験に如かず～」

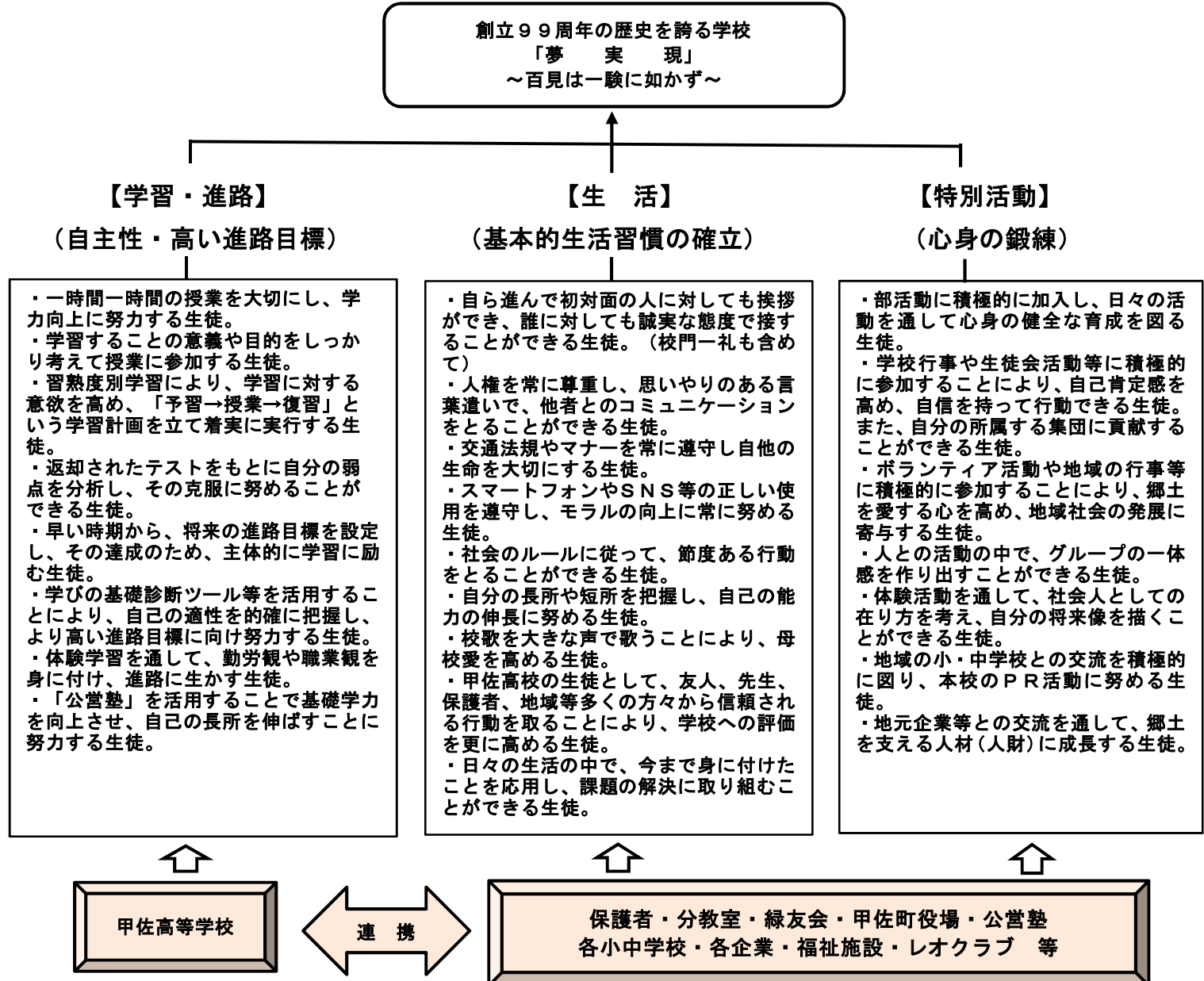
ア 教育方針

- (ア) 県教育委員会関係課から出されている「平成31年度教育指導の重点及び取組の方向」を基本に、本校「五綱領」を踏まえ、社会に貢献する生徒の育成をめざす。
- (イ) チーム学校の一員として、生徒・職員・家庭・地域一体となって、活気ある学校づくりを目指す。

イ 教育目標

- (ア) 健全な心身の育成
 - ①学校の教育活動全体を通して、人権尊重、道徳を含む生徒の心身の向上に努める。
 - ②体験学習・ボランティア活動を通じて、人を思いやる心(恕の心)や、奉仕する心を育てる。
 - ③部活動を活発化させ、行動力、協調性、社会性を磨く。
 - ④教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育の徹底を図る。
- (イ) 学力向上と進路指導の充実
 - ①一人ひとりの学力や個性に応じた「参加する授業」を工夫し、自ら学び考える力を育成する。
 - ②面談やLHR等を通じて、将来の進路目標を早期に設定できるように援助し、キャリア教育の視点から自己実現に取り組みせる。
- (ウ) 地域社会と連携した学校づくり
 - ①一人ひとりの活動する機会を工夫する。
 - ②地域社会との連携を通して、あいさつやマナー等基本的な生活習慣を身につけさせる。
 - ③地域と連携した教育実践を更にすすめる。
 - ④創立百周年の記念事業に向けて、地域の方々に来校いただく機会を増やすことにより、学校、生徒理解につなげ、信頼される学校づくりを目指す。
- (エ) 郷土を支える人材(人財)の育成
 - ①地域の方々と触れ合う機会を通して、郷土への理解を深めると同時に、郷土を愛する心を育てる。
 - ②地域創生の観点からも、将来的に地域の経済社会を担っていく人材、ひいては、組織の中で必要とされる人的な財産としての人財を育成する。

ウ 熊本県立甲佐高等学校の目指す生徒像



2 本年度の重点目標						
<p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>(ア) 正しい言葉遣い、爽やかなあいさつを身につけさせ、社会に適応する力を育てる。</p> <p>(イ) 時間を厳守し、遅刻や欠席のない生活習慣や身だしなみを確立する。</p> <p>(ウ) 交通マナーやSNS等、社会のルールに対する規範意識を高めさせ、地域を支える人材を育てる。</p> <p>(エ) クラスや地域に貢献し、甲佐高校生として自覚と誇りを育てる。</p> <p>イ 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導</p> <p>(ア) 「授業力」の向上</p> <p>生徒が主体となる授業の工夫を重ねるための授業研究、公開授業を活用する。また、生徒からの授業評価を日々の授業の実践に生かす。</p> <p>(イ) 個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <p>(ウ) 夢実現のため図書館や進路指導部等の活用をすすめる。</p> <p>(エ) 日々の教育活動を通じて生徒理解に努め、共通理解を図る。</p> <p>ウ 特別活動（生徒会・部活動等）を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成</p> <p>(ア) 部活動や委員会活動等への積極的に参加できるよう運営や時間を工夫し、教育活動全般を通じて人権教育、道徳教育を行う。</p> <p>(イ) 学校行事、ボランティア活動などを通じて、自ら考え、自ら行動できる生徒に育て、将来的に郷土を支える人財（人財）を育成する。</p> <p>エ 地域と連携した教育活動</p> <p>(ア) 広報活動や学校評議員制度等を通じて、地域社会に対し本校教育への理解と協力を深める。</p> <p>(イ) 保護者との面談や家庭訪問を計画的に行い、家庭と学校の連携を密にするとともに地域社会、特に小・中学校との連携を深める。</p> <p>(ウ) 職員の中学校別担当制を取り入れ、中学校へのPR活動等を強化することにより、入学者増を図る。</p> <p>オ 言語環境の整備</p> <p>(ア) 学校生活全体を通じて、言語に関する理解や関心を深め、言語環境を整えるとともに総合的な言語能力（読む・書く・聞く・話す）の習得並びに実践する態度を養う。</p> <p>(イ) 図書館の充実を図る。</p> <p>カ 教育相談体制の充実</p> <p>(ア) 全ての教育活動を通じて、生徒理解と実態把握に努め、心の教育の充実を図る。</p> <p>(イ) 各校務分掌や教職員間の情報共有を図り、いじめの早期発見や対応、特別な配慮を要する生徒への対応等、教育相談体制を更に充実させる。</p> <p>(ウ) 中高連携を更に充実させ、生徒を支援する組織力を高めると共に、日々の学校生活に有用感や達成感等を得させ、進路変更を減少させる。</p> <p>キ 防災教育の徹底</p> <p>(ア) 熊本地震を教訓とした防災教育の充実を図る。</p> <p>(イ) 地域社会、関係機関等との連携を更に図り、風水害等の災害に適切に対応する防災体制を強化する。</p>						

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	活気ある学校	体験学習・ボランティア活動の充実 (教育目標②)	自ら積極的に体験し、奉仕や勤労、命を大切にし、人権を尊重する心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ビジネス情報科で校外実習の更なる推進を図る ・校外でのボランティア活動に積極的に参加し、人を思いやり心(恕の心)と奉仕の心を育てる 	A	長期インターンシップは昨年度以上の地元企業の協力があり、充実した学習を行うことができた。また、地域のボランティア活動にも生徒会を中心に参加することができ地域交流を深めることができた。
		学校行事等で育む自ら考え行動する生徒	学校行事等に自ら積極的に創造的に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学校行事に100周年へと繋がる生徒中心の創造的な企画と運営に取り組む ・学校行事での役割分担と協力体制を明確にし、生徒一人ひとりが達成感を味わえるようにする 	A	体育大会、青垣祭とも生徒中心の行事となった。体育大会では100周年をアピールする種目を取り入れた。青垣祭では町の商工会とコラボし、甲佐町産業文化祭と合同で行うことができた。生徒も職員も地域住民との絆を深めることができた。
		部活動の活性化 (教育目標③)	社会(地域)と関わり、年間を通して活発に活動する部活動の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりとした活動計画を立て、安全で楽しく学べる部とする。 ・行動力、協調性、社会性を学び人格形成の場とする 	B	・各部に週1日の休息日を取りながら安全で楽しい活動が実施できた。大きな事故もなかった。今後は部活動への加入率を上げたい。

信頼される学校	育友会、地域、同窓会との連携協力	100周年に向け、連携を深める	・100周年記念事業拡大実行委員会及び関連した会議を通して、お互いの連携を深める	A	・本年度は、同窓会や育友会、行政・商工会と連携し、具体的な取組ができた。特に町の産業祭では来年を見通した取組ができたことは良かった。
	保護者・地域等との連携と効果的説明・広報	情報発信の強化 次年度の入学生60人以上を目標とする	・「学校だより」の毎月発行 ・安心メールによる情報提供推進 ・育友会誌の充実 ・職員全員で担当中学校を決め、本校の教育活動を積極的に情報発信し、次年度の生徒数増に繋げる	A	・甲佐高だよりを毎月発行して町内の回覧に載せ近隣の中学校に配布した。 ・学校HPでは毎日、学校での出来事をアップし閲覧数が増えた。 ・校外学習等では町の活性化事業等に参加し、地域との交流と地元探求ができた。
学校改革	緊急時対応の充実	緊急時対応マニュアルや安心メールを活用し防災意識を高める	・緊急時対応マニュアルに沿った避難訓練等の実施 ・安心メール登録100%実現 ・模擬対応を行う	B	・学校運営協議会等で検討した地域学校合同避難訓練では多くの住民に参加頂き防災に対する意識を高めることができた。 ・安心メールの保護者登録率は80%で全員登録とはならなかった。
	職員の連携・特性の発揮	働き方改革の推進を踏まえた校務運営の改善 生徒との関わりの時間を確保し、生徒の不安や困り感を解消できる環境をつくる	・校務のスマート化を図り重複する校務や無駄な仕事を減らす ・職員間の打合せを綿密に行い、共通理解を図りながら校務に当たる ・生徒目線でのかわり方を大切にしながら信頼関係を築き、夢を語る雰囲気をつくる	B	・校務分掌内のスマート化はできた校務分掌もあった。 ・職員会議や行事前の打合せなどで職員間の共通理解を図った。昨年度よりは、風通しのよい職場になったとの意見もあった。
	会議等の効率化と研修の深化	連絡体制の簡素化と充実を図る 職員研修の充実を図る	・職員朝会の簡素化(週2)を図り、各人での定時退勤日を実施する ・運営委員会の議事録を全職員で共有する ・職員研修を長期休業日間に実施	B	・職員朝会と各人での定時退勤日は、概ね実施できたが、定時退勤日に関しては、完全定着までは至っていない。 ・職員研修は、長期休業日等を利用して実施することができた。
学力向上	授業力の向上	「分かる授業づくり」の工夫と研究授業 研究授業の積極的な実施 公開授業の活発化 ICT機器の利活用 授業のUD化 ALの推進	・授業評価アンケートの実施 ・研究授業への参加率向上(2回以上参観が80%)、教科の枠を超えた横断的な合評会の開催 ・公開授業週間の設定、積極的参観、地域・関係各所への案内	A	・授業評価アンケートを実施し、授業力向上に活用した。 ・公開授業の2回以上の参観は6割にとどまったが、2回目(11月)は1回目(6月)よりも向上した。 ・校外研修や公開授業への参加、ICTの利活用は増加した。 ・地域、中学校からの参観があった。
	個に応じた「分かる」学習指導	授業の理解と個別指導の充実	・指導法、生徒理解情報の共有 ・身近な題材、体験的学習 ・観点別評価の更なる充実 ・放課後学習会との連携	B	・巡回相談等を活用し、指導法の向上に努めた。 ・複数の教科で校外体験学習を実施した。 ・新学習指導要領に向けた評価方法について検討を進めた。
	学習に対する意欲・姿勢	自ら学ぶ意欲	学習に対して、自ら意欲的に取り組んだ体験を持つ生徒を100%	・人権教育の視点に立った個々に応じた丁寧な授業づくり ・基礎基本の徹底、課題学習 ・将来(進路)につなげる学習指導 ・あゆみ学舎(公営塾)の活用、連携	B

キャリア教育・進路指導	自らの可能性に挑戦し、進路目標の実現を目指す	自己実現に繋がる早期の目標設定	進路目標の早期設定を目指す（3年生は6月までに100%、1・2年生は、2月までに70%）	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点に立った進路学習の実施 進路ガイダンス等への参加 タイムリーな進路情報の提供 二者面談や三者面談の実施 あゆみ学舎（公営塾）との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に計画した進路関係の取り組みは全て実施することができ生徒の進路学習の充実や進路意識の向上に繋がった。また、今年度はあゆみ学舎（公営塾）との連絡会を定期的に行うことができ連携をより深めることができた。
		進路目標実現のための努力	就職・進学希望者全員の進路目標達成	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な進路情報の収集と提供 3学年や各教科との連携や情報の共有 個別指導学習会の実施 進路ガイダンスや職場見学の活用 あゆみ学舎（公営塾）への参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3学年職員や各教科担当者、公営塾スタッフなどと連携し、就職・進学試験等に向けた進路指導の充実を心掛けた結果、肥後銀行をはじめとして就職・進学希望者の多くの進路目標を達成することができた。
生徒指導	個を尊重した生徒指導	基本的な生活習慣と言語環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 「暴言」における特別指導件数ゼロ 無遅刻率98%以上の達成 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で、全職員が言葉遣いに対する指導の意識を強く持つ。 遅刻指導を有効に生かす（回数が多い生徒への面談等）。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いでは全職員による指導で「暴言」における特別指導はなかった。 遅刻回数は激減したが無遅刻率は95%を割った。
	安心・安全	甲佐高校生としての自信と誇り	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導件数10件未満 「正門一礼」の励行 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の未然防止のための情報共有、巡回指導等の実施。 登校指導の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学年との情報共有によって、特別指導件数は激減（10件）した。 正門一礼は生徒間で習慣付いた。
		移动通信端末の危険回避と適切な利用	<ul style="list-style-type: none"> インターネット、SNS利用が関係する問題行動件数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル講演会の実施 インターネット、SNS利用に関するアンケートの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> SNSにおける問題行動は減少傾向だが、些細な問題はまだ発生しているため、今後も継続して指導が必要である。
		交通安全教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故件数ゼロ 交通違反件数3件以内 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全講話の実施 原付通学生の実技講習会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1件の交通事故（被害事故）があったが、違反はなく、原付通学生をはじめ、交通マナーは良くなっている。
人権教育の推進	人権尊重の精神	人権に関する理解の深化および豊かな人権感覚の育成	人権課題解決に向けた学習の実施と差別をなくそうとする態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の積極的推進(全領域) 人権教育講演会の実施 人権が尊重される環境づくり 家庭訪問を中心にした背景理解 人権感覚を高める校内研修の充実 	B	人権教育講演会を実施した。担任をはじめ様々な立場の職員で家庭訪問を行い、生徒およびその背景の理解に努めた。人権感覚を高めるための校内研修を複数回行った。
		研修の充実と推進体制の強化	計画的な校内研修の実施 年間、最低1回の校外研修を含めた計画的な研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会の活性化 校外研修の案内と参加促進 実践力向上に向けた意識啓発 	B	人権教育推進委員会は活発に行った。校外研修も全職員が参加した。研修で各人が実践を出し合うことで、実践力向上につながった。
	命を大切にすることを育む	自他の命を大切にすることを育む心の育成	「自他の命を大切にすることを育む」教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 命の教育、心の教育の充実 職員会議・研修等による共通理解と生命尊重に立った教育実践 相談窓口の周知 SC・SSW等の専門機関との連携 	B	命についての講演会を行った。相談窓口の周知を行った。また、SC・SSW等の専門機関との連携も十分に図ることができた。
いじめの防止等	いじめ防止と早期の発見	「いじめ防止基本方針」及び「いじめを許さない」行動指標の定着	生徒・職員・保護者の連携 「いじめを許さない」行動指標の点検（アンケート等）	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修等の充実 「心のきずなを深める月間」に各クラスで学習を実施 定期的なアンケートの実施 	B	「心のきずなを深める月間」に各クラスで「SNSの使い方、言葉遣いについて考える」学習を実施した。定期的にアンケートを実施した。

		いじめ未然防止のための組織的な取組	生徒・職員・保護者の意識向上によるいじめ未然防止早期発見、早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による働きかけ ・いじめ防止対策委員会活動の充実（定例開催、随時開催） ・職員会議・学年会等での共通理解と検証 ・全校集会等を活用したいじめ防止等の推進 	B	「甲佐高生のSNSや言葉遣いで気を付ける14のこと」を作り、生徒会から呼びかけを行った。いじめ防止対策委員会を定例開催した。
特別支援教育	個々への適切な支援と、ユニバーサルデザインの授業づくり	特別な支援を必要とする生徒の把握・対応 ユニバーサルデザインの授業づくり	個別の支援計画、指導計画の活用 生徒、保護者、専門機関との連携 職員の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画・指導計画の定期的な評価、検証（校内委員会、職員研修での共有）、交流面談の実施 ・ストレス対処法LHRの実施 ・各種機関との情報交換 ・校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会、生徒理解研修を通して支援計画・指導計画の情報を共有した。より効果的な活用を目指したい。各学年でストレス対処法LHRを取り入れた。 ・巡回相談や近隣校との情報交換をし、生徒支援につなげた。講師を招いて難聴の生徒について、また、支援の必要な生徒へのかかわり方についての校内職員研修を行った。
保健環境	保健管理意識の高揚	健康に対する自己管理能力を高める	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・個別相談、保健指導を実施し、個々の健康課題の解決を図る。 ・健康情報を「ほけんだより」などで提供する 	B	保健委員が作成する「ほけんだより」と個人に配付する「ほけんだより」の2種類を作成できた。健康課題の解決に向け、個に応じた保健指導に力を入れていきたい。
	環境整備	安全管理と環境美化意識の向上	安全点検の実施 環境ISOの周知	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による安全点検を学期に1回実施 ・環境美化委員による環境ISOチェックの実施 	A	安全点検は学期に1回実施できた。環境ISOチェックも週に1回行っている。引き続き意識の向上を図りたい。
地域連携	地域防災および防災教育の確立	生徒・職員の防災に関する意識の変容	防災型学校運営協議会を通して、地域防災についての理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の実施（年3回） ・地域と連携した防災訓練の実施 ・町の防災訓練への参加 ・ハザードマップを用いた防災学習の実施 	B	地域と連携した防災訓練は、雨天を想定して実施した。ハザードマップを用いた防災学習は、一部のクラスでの実施にとどまった。

4 学校関係者評価

(1) 成果

- 長期インターンシップは昨年度以上の地元企業の協力があり、充実した学習を行うことができた。また、地域のボランティア活動にも生徒会を中心に参加することができ地域交流を深めることができた。
- 体育大会、青垣祭とも生徒中心の行事となった。体育大会では100周年をアピールする種目を取り入れた。青垣祭では町の商工会とコラボし、甲佐町産業文化祭と合同で行うことができた。生徒も職員も地域住民との絆を深めることができた。また、100周年に向けて、甲佐地区の地区体育大会を令和2年度は本校の体育大会と合同で開催できないかとの相談があった。このことから地域での甲佐高校の存在感は強まっている。
- 本年度は、同窓会や育友会、行政・商工会と連携し、具体的な取組ができた。特に町の産業文化祭では来年を見通した取組ができたことは来年度の創立100周年に繋がった。
- 今年度は、甲佐町に支店を置く地方金融機関への就職が決まった。昨年度の甲佐町役場に続いて、公営塾での取組と地元企業への働き掛けが良い結果に繋がった。
- 生徒募集に向けて、職員による近隣中学校担当制を編成し、毎月、甲佐高だより、校長だより等の配付を持参するなどして、中学校との関係を深めた。その成果としては、昨年度の募集人員を上回ることができた。
- 甲佐高は手厚いという話を聞いている。甲佐中に帰って話をしたい。先生たちの取組は評価されていると思う。
- 生徒数を増やすことを考えている。校長先生が中学校で説明しているのはいいこと。ライオンズの中でも甲佐高校の生徒の評判はよい。やっぱり人柄だと思う。
- 11月に「学校現状保護者説明会」を開催し、学校長から保護者に向けて甲佐高校の現状を伝えた。保護者からは生徒募集に繋がるいい説明会であったとの意見をいただいた。具体的な意見は以下のとおりです。
 - ・校長先生をはじめ、先生方が一丸となり、甲佐高校のために尽力をつくっておられることがよく分かり、本当にありがたく感じました。
 - ・生徒を増やす為には、地域や学校、保護者が積極的に活動する事も大切なのかと感じました。保護者は子どもを市内にと考える事を少しでも地元の高校のメリットを伝えて、意識を変えていく声が必要なのかなと思いました。
 - ・ビジネス情報科卒業後の進路状況の幅が大きいのにびっくりしました。早く知っていたらビジネス情報科へ入学したかっただと思いました。学校説明会等で話をされると生徒を増やす事につながると思いました。普通科は、大学、専門学校への進学を目指して入学する生徒が多いと思います。個人での学習（塾での学習）も大切だと思いますが、学校でも共通テスト対策になるような取り組みをして頂きたいと思います。「あゆみ学舎」に頼りすぎている印象を受けます。その部分

をクリアしないと普通科の生徒は増えないのではないのでしょうか。

- ・校外に向けても発信して欲しい。
- ・大変有意義な時間であったと思われま。校長先生をはじめ、先生方には大変ご苦労様でした。
- ・生徒が集まらないとはいえ、学力向上に繋がらない事はあまりイメージ的に良くないと思います。
- ・「学校現状保護者説明会」はいいことだと思います。今後も年に1回は行って欲しいと思います。
- ・子どもたち一人一人をいつも丁寧にみてくださり、本当に感謝しております。
- ・生徒たちの事をよく見て下さっていると思います。いじめ等に関しては、再度チェック、本人のケアや生徒指導が必要かと思われま。

(2) 提案

- 人権の研修は職員だけではなく生徒も含めた研修をお願いしたい。
- 交通安全指導は、スタントマンによる実演を行った交通安全教室を行ってもよいのではないか。
- あゆみ学舎との連携について具体的に聞きたい。
- 介護系に就職した生徒は、全員、介護施設なののでしょうか。甲佐町にもいくつかの福祉施設があるし、甲佐の施設は高校生を欲しがっているの、甲佐高生には甲佐町で福祉介護の仕事に就いて欲しい。
- 公営塾のおかげで役場や肥後銀行など今までなかったところに就職出来ている。進学も向上していけばPRに繋がる。
- 町の防災訓練は横田地区だけで行っているのか。甲佐中学校も参加できないだろうか。中学生、高校生、地域住民が交流する場面があってもいいのではないか。
- 龍野小学校は甲佐高校と交流がないが、悪い評判は聞かない。SNSでのトラブルは小学校でも起こっている。今は家で通信ゲームを行っており、友達とのつながりが希薄なため、危機感を抱いている。SNSでのトラブル防止は小学校から取り組まなければいけない時代になっているので、高校生が小学生にインターネット等の利用について教えるような交流ができないか。
- 進路指導は高校の生命線だと思う。手帳を持った進路指導はハローワークと連携しているのか。
- 甲佐高校はよい学校だと理解は深まってきているが、町民はまだ昔のイメージが根強い。結果が出つつあるので、いろいろな手段を使ってPRしてほしい。
- 福祉教養コースの状況が心配。学科の高校でも1桁だったり、と厳しい状況。福祉業界に興味を持ってもらえるようパイロット事業など取り組んでいる。職員が気持ちを持って継続して取り組んでいきたい。
- 今外国人技能実習制度を進めている。日本人が入らないから外国人を入れようとしているが、地元の企業も日本人がきつい仕事を避けているので外国人を入れようとしている。そんな時代なので甲佐高生には、高校の3年間で力を身に付け、自分たちがやりたい仕事を見つけてほしい。

5 総合評価

1 本校の教育方針と教育目標 「夢実現 ～百見は一験に如かず～」

(1) 教育方針

- ・社会に貢献する生徒の育成をめざし、多くの場面で町や地元企業等との連携を図りながら実践的な教育ができた。
- ・職員、生徒、家庭、地域一体となる取組ができた。特に体育大会や青垣祭では創立100周年に向けての地域との繋がりがあ学校行事を実践できた。

(2) 教育目標

ア 健全な心身の育成

- ・校外での学習や販売会への参加など、地域と連携した活動の機会が増えた。昨年度から実施した地域連携型交流学習(長期インターシップ)や甲佐町産業文化祭と合同で実施した文化祭は健全な心身の育成には大きく貢献できた取組になった。
- ・年間を通しての人権教育講演会等の取組により、人権を尊重する心と命の尊さを育むことができた。
- ・硬式野球部、女子バレーボール部、バドミントン部、クライミング部、テニス部等では健全な心身の育成に取り組んだ。

イ 学力向上と進路指導の充実

- ・公開授業週間を設定し、地域・近隣中学校からの授業参観があった。
- ・公営塾との「大人インタビュー」講演会を数回実施し、コミュニケーション能力の向上等に取り組めた。
- ・学習会(全学年対象の個別学習)を実施し、進路実現に向けた発展的な学習にも取り組んだ。
- ・特性のある生徒については、特別支援教育コーディネーターの巡回相談を積極的に利用した。また、出身中学校との連携も何度か実施することができた。
- ・ハローワークや支援事業所と連携を図り障がい者雇用制度を利用し、進路を決定することができた。

ウ 地域社会の期待に応える学校づくり

- ・甲佐町からのボランティア協力依頼は積極的に協力することができた。
- ・地域の行事参加により様々な学びができた。特に青垣祭は甲佐町産業文化祭との合同実施となり、地域との繋がりを強めることができた。

2 本年度の重点実践項目

(1) 基本的な生活習慣の確立

- ・正門一礼は習慣化してきた。
- ・毎日の登校指導は実施し、昨年度に比べたら遅刻が激減した。

(2) 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導

- ・公開授業2回以上の参観率は6割にとどまった。校外研修や公開授業への参加、ICTの活用は増加した。地域、中学校からの参加があった。
- ・進路指導では、3学年職員や各教科担当者、公営塾スタッフなどと連携し、就職・進学試験等に向けた進路指導の充実を心掛けた結果、肥後銀行をはじめとして就職・進学希望者の多くの進路目標を達成することができた。
- ・学習習慣や家庭学習の定着に向けての取組は不十分だった。
- ・あゆみ学舎と進路指導部のミーティングを毎月開催し、ゼミ計画や進路指導の情報共有を行い連携が深まった。

- (3) 特別活動（生徒会・部活動等）を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成
 - ・生徒会を中心に甲佐中と連携した活動を行った。地域とのつながりを大切に、社会から必要とされる存在を目指して今後も社会奉仕活動に取り組みたい。
- (4) 地域と連携した教育活動
 - ・青垣祭は甲佐町商工会主催の甲佐町産業文化祭と合同で実施することができた。
 - ・近隣中学校担当班を編成し、毎月発行している甲佐高だよりと校長だより等を近隣中学校に配付した。また、甲佐町の回覧を利用した広報活動、育友会の広報や学校評議員会等での発信により甲佐高校に対する理解と生徒募集に繋がった。
 - ・今年度も町内の保育園の園児を対象にビジネス情報科の1年生が缶バッジ作成を指導した。とても好評であった。
 - ・甲佐町の「子ども議会」に参加させていただき、地域での甲佐高校の存在を考える貴重な機会になった。
- (5) 言語環境の整備
 - ・今年度も言葉を大切にすることを繰り返し伝え指導した結果、言葉遣いは良くなり、生徒たちに落ち着いた生活を送る様子がみられるようになった。
 - ・SNS等での誹謗中傷を絶対にしないように指導してきたが、SNSでのトラブルはまだある。
- (6) 教育相談体制の充実
 - ・学期に1回の生徒理解と実態把握のために職員研修を開き、共通理解を図った。
 - ・今年度も面談週間を設定し、担任以外の職員との面談を1、2年全員に行った。日頃の様子や悩み等が聞け、生徒理解の良い機会となった。一人の生徒を多くの職員で見守る環境づくりにこれからも取り組んでいきたい。
 - ・スクールカウンセラーとの面談を積極的に取り入れ、日頃の悩みだけではなく、自己肯定感を高める面談を行うことができた。特に1年生に関しては、全員にSCとの面談を実施することができた。
- (7) 防災教育の徹底
 - ・今年度も防災型コミュニティスクールとして本校で地域合同防災訓練を実施した。昨年以上に住民の参加が多く、年ごとに地域との一体感が深まっている。
 - ・学校全体での防災教育は実施できたが個人への防災教育が十分ではなかった。

3 自己評価総括表

昨年度から「地域連携(コミュニティ・スクール)」を自己評価に加え、地域との連携の評価が具体的にできるようになったので非常に良かった。防災型コミュニティ・スクール(学校運営協議会)への取り組みに関しては、3年目になるが地域住民との連携は年を重ねる毎に充実してきた。合同防災訓練で地域住民との距離が縮まったのは間違いない。災害時での連携力は普段のコミュニケーションが大切であることを改めて感じた。また、町の行政(役場)との連携ができていることは、防災関係だけではなく、他の地域活動にも生かすことが出来ている。来年度からは3年間の防災型学校運営協議会の運営をベースに総合型学校運営協議会に移行し、地域とのより良好な関係を築けるようにしたい。

「学校改革」では、昨年度に引き続き職員朝会を週2回としている。職員の出退勤の調査と勤務時間外状況調査に関しては学校独自のソフトを使用することで先生方の作業負担を軽減している。

今年度は、職員全体で入学者増も目指し取り組んできた。具体的には、近隣中学校に2～3名の担当者を決め、毎月発行している「甲佐高だより」「校長室だより」を持参したり、学校説明会に出向くなどして本校の広報を行った。その結果、令和2年度の受検生は増加した。

甲佐町が運営する公営塾と協力し、近隣中学校の生徒(3年)と保護者、先生を対象に「学校アンケート」を実施した。アンケートの結果は、非常に参考になるものであった。特に甲佐高校の良いイメージと現状については各中学校の先生方には伝わっているが肝心の保護者までには伝わってなく、昔の悪いイメージを持っている保護者が多かった。今後は保護者まで伝わるための工夫が必要であり、この課題が生徒募集に直結するので、甲佐高校のイメージアップと広報(伝達方法)に力を注がなければいけない。

6 次年度への課題・改善方策

甲佐町の公営塾との連携、女子硬式野球部下宿の設置、ビジネス情報科の地域連携型交流学習(長期インターシップ)での校外活動やボランティア活動等により町行政との連携は深まっている。今後もこれまで以上に連携を深め、地域(甲佐町)に根付いた教育活動になるよう積み重ねていきたい。女子硬式野球部の下宿設置は、町の教育委員会の協力があり設置準備までは進んだが、入学者(女子野球部入部者)がいなかったため、途中打ち切りの状態になってしまった。町の方針にもよるが、学校全体の下宿として利用できるようにできないかと考えている。

次に入学者増に繋がる活動については、これまで以上に広報活動に力を入れたい。「チーム甲佐高校」としての意識を高め、職員一人一人が積極的に取り組める組織環境を作る。来年度は創立100周年の節目の年であり、甲佐高校の新たなスタートとして、古き良き伝統を守り新しいものに挑戦する意識を持って頑張りたい。

新学習指導要領の高等学校版が公表され、今後は授業の在り方そのものが変化していく。「生徒の主体的学び」を常に意識しながら、現学習指導要領の踏襲をしていく必要がある。

創立100周年に向けて、甲佐高校生として自覚と誇りを育てるために、次年度は特に以下のことを意識して取り組む。

- ① 令和2年度の学校行事は創立100周年記念行事として、生徒、職員一丸となって取り組み全ての行事を大成功させる。
- ② 生徒募集については、在籍している生徒の満足度を高め、近隣中学校、地域との連携を深めることを両輪として、学校全体で魅力ある学校づくりとイメージアップに取り組む。
- ③ 研究授業、公開授業週間の実施については、年間シラバスの作成と授業評価を実施し、教員個人の指導力アップを図る。
- ④ 進路実現に繋がる基礎的学力向上への取組を行う。公営塾と連携を強化し、個別学習会やキャリア教育の充実を図る。
- ⑤ 進路決定率100%を達成すると共に、より高い進路目標や資格取得・検定に挑む体制を整える。
- ⑥ 「正門一礼」や日常の「気持ちの良い挨拶」を習慣化し、社会人としての基礎を定着させる。
- ⑦ コミュニケーション能力を身に付け、人間関係を良好に築くことが出来るようする。また、SNSが原因のトラブルも発生しているため、再度、情報安全・情報モラル教育を徹底する。
- ⑧ 「言葉遣い」の徹底を図り、他者を思いやることができる心を育てる。
- ⑨ 普通科・福祉教養コース・ビジネス情報科における地域連携の深化。